

令和元年度 第1回八千代市農業振興計画策定検討委員会 会議録

- 1 開催日時 令和元年11月15日(金) 14時から16時30分まで
- 2 場所 やちよ農業交流センター第1・第2研修室
- 3 出席者 <委員> 14名 ※欠席1名
谷口 信和 委員, 石井 忠徳 委員, 村山 富子 委員, 土井 智 委員
高橋 秀行 委員, 高橋 充 委員, 斎藤 等 委員, 周郷 崇 委員
佐藤 光明 委員, 大段 勝裕 委員, 星 靖夫 委員, 恵 芙久子 委員
押田 智子 委員代理, 豊田 和男 委員

<事務局> 6名
萩野課長, 周郷副主幹, 青野主査補, 若梅主事
株式会社流通研究所 職員 2名
- 4 議題 (1) 昨年度の取組みについて
(2) 市民対象アンケート調査票について
(3) 農家対象アンケート調査票について
- 5 公開・非公開 公開
- 6 傍聴人 2名
- 7 所管課 経済環境部 農政課
電話: 047-483-1151 内線: 3561

会議は定刻に開会され、会議の成立報告及び資料確認後、豊田会長が会長あいさつを行った。続いて委員の紹介及び事務局の紹介があり、その後会議の内容に移った。

1 昨年度の取組みについて

○事務局

本会議の議長でございますが、八千代市農業振興計画策定検討委員会設置要領の第6条第1項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、豊田会長にお願いいたしたいと思います。それでは豊田会長お願いいたします。

○豊田議長

それでは私の方で議事進行を務めさせていただきます。次第4内容の(1)昨年度の取組みについて、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

率直なご意見をお聞かせ願えればと思いますので、よろしくお願いいたします。本市は農業振興計画の見直しを進めておりますが、農業振興計画は本市の農業の長期的な展望を示すものであることから、行政だけの考えで策定しても実行性が中々得られないと考えております。そのため、農業関係者の方にはもとより、流通に係る方や消費に係る方も含め、広く農業に係る方々のご意見を頂きながら作り上げていきたいと思っております。ご出席の皆様には忌憚ないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、昨年度の取組みについてご説明させていただきます。配布資料「平成30年度における農業振興計画策定に向けた取組み」をご覧ください。昨年度は、令和元年度と令和2年度の2か年をかけて農業振興計画を見直すという流れになるよう、農業振興計画を見直す機運を高めるための取組みを行いました。具体的には、アンケート調査の実施、農業関係者の方を対象とした意見交換会の開催、シンポジウムの開催が挙げられます。

ひとつずつ確認してまいりますと、まず昨年8月に第1回の意見交換会を開催いたしました。この時は、本市の農業の現状についてプロジェクトを用いて紹介した後、参加者にご意見を述べていただく形で実施いたしました。

その後、八千代市の農業者の現状を把握するため認定農業者や農業団体所属者等を対象としたアンケート調査を、10月から11月にかけて行い、12月上旬に開催した第2回目の意見交換会において、同アンケート調査の結果を紹介いたしました。第2回目の意見交換会においては、紹介したアンケート調査結果から感じたことや日頃から問題に思っていること等から、次回話合うべきテーマを決定するというグループワークを行い、次回話合うテーマとして、お金に関すること、農地に関すること、担い手に関すること、都市農業を活かした販売戦略に関すること、という4つのテーマを決定しました。

12月下旬に開催した第3回目の意見交換会では、解決策を話し合いたい問題を1つ決め、前回決めたテーマ別に解決策を考え、提案された解決策を、すぐできること、少し時間がかかることなど、実行に必要とする時間別に分けるグループワークを行いました。このグループワークを行っ

たことにより、問題を解決する手段を実行するために時間がかかるものもあることから、そのような施策を実行するためには、計画を立てて進める必要があるという認識をもっていただけだと思います。

このように3回に渡る意見交換で盛り上げた機運の総仕上げとして、3月にシンポジウムを開催する運びとなり、シンポジウムで消費者側の意見として紹介するため、2月半ばに市役所来庁者を対象として簡易なアンケートを実施しました。

3月に開催したシンポジウムでは、導入報告として、本市の農業について統計資料を用いて紹介した後、本年度行った取組みとして意見交換会の概要やアンケート調査結果の紹介を行いました。

その後学識経験者や農業関係団体の方々をパネリストに迎えたパネルディスカッションを行い、その中でパネリストとして参加した市長より、令和元年度から農業振興計画の策定に取り組む旨の発言があったことから、シンポジウム参加者に対して市が令和元年度から計画策定に取り組むことについての周知が図られました。説明は以上です。

○豊田議長

ありがとうございました。今の説明について何かご質問等ございますか。

○土井委員

意見交換会にはどれくらいの人数が参加したのですか。

○事務局

意見交換会では、1回目で33人、2回目で32人、3回目で34人ご参加いただきました。シンポジウムは、1部に75人、2部に36人ご参加いただきました。

○豊田議長

シンポジウムには多数の方に参加いただいておりますが、その時の状況について教えてください。

○事務局

シンポジウム参加者の細かい内訳まではわかりませんが、農業委員会の方にお声かけいただいたため、農業委員会の方に多くご参加いただきました。シンポジウムにパネリストとしてご参加いただいた方で、本日の委員としていらっしゃっている方もいます。事前配布した資料の「農業未来」にその写真も掲載しているので、見ていただければと思います。シンポジウムでは、今、八千代市の農業が抱えている課題や、これからもっと盛り上げていけばよくなるのではないかと、という話が出ました。

○恵委員

これまでの取組み、流れについてご説明いただきました。その中で、事務局にて集約した特徴的な意見や傾向といった中身の話もいただければと思います。

○事務局

意見交換会については農家の方にとってはあまり機会のないもので、政策を決めていくときの話し合いの過程を見ていただきたかったというのが目的の1つとしてありました。意見についても、多様な意見が出ましたが、最終的にはお金に関する事、農地に関する事、担い手に関する事、都市農業を活かした販売戦略に関する事、という4つのテーマに集約しております。

○豊田議長

他にご質問はございますか。よろしければ次の議題に進めさせていただきます。次第4内容の(2)市民対象アンケート調査票について事務局より説明をお願いします。

2 市民対象アンケート調査票について

○事務局

それではアンケート調査票の説明をさせていただきたいと思いますが、その前に、アンケート調査票について協議していただく上で、参考としていただくため、八千代市の農業について、既存統計を整理したものと関係団体のヒアリング結果を紹介させていただきます。既存資料を整理したものと関係団体のヒアリング結果につきましては、株式会社流通研究所よりご説明させていただきます。

○事務局

それではご説明させていただきます。統計資料整理という資料をご覧ください。

農林業センサスを中心にこの10年間における八千代市農業の変化や特徴を整理させていただいたものです。1ページ目は2005年から2015年にかけての農家数の推移になります。2005年から2015年で約200件減少していることがわかります。また、その内訳として、年間50万円以上の売上げがある販売農家と50万円以下の自給的農家でみますと、自給的農家は大きく減っていないものの、販売農家が大きく減少しています。さらに、農地は所有しているが農業はやっていない土地持ち非農家については増加しており、積極的に販売をする農家よりそうでない農家が増えている状況がわかります。

次に、2ページ目をご覧ください。こちらは専業・兼業別農家数についてで、33%が専業農家で、51%が第2種兼業農家となっています。

3ページ目は販売農家の後継者の有無についてです。同居後継者がいるという方は31%、同居以外で農業後継者がいるという方は15%、農業後継者がいないという方は54%となっています。

4ページ目は年齢別農業就業人口についてです。家族の方で、主として農業をやられている方も含みます。40~59歳の働き盛りの年代で半減していることが見て取れます。

5ページ目は経営耕地面積の推移についてです。経営耕地とは、農業経営体の方が農業経営のために利用している農地のことで、2005年では821haだったものが2010年では726haとなっており、この10年で約100ha減っていることがわかります。

6ページ目は耕作放棄地面積の推移についてです。2005年の107haから2010年の141haまで合計で耕作放棄地が34ha増えていることがわかります。内訳をみると、土地持ち非農家の耕作放棄地が増えています。

7ページ目は作物別経営体数です。露地野菜、稲、露地果樹の順で多くなっています。

8ページ目は畜種別飼養経営体数です。乳用牛が15件、肉用牛が8件、養豚が2件となっています。

次に、他市との比較を示しています。比較対象として人口、農地が八千代市の2倍程度の柏市、八千代市と同様に急速に都市化が進み農地が減少した埼玉県越谷市、にんじんの産地である富里市について、人口、農業産出額、農業産出額の中の野菜・果実・花き、経営耕地面積、経営耕地面積の中の畑・樹園地、野菜・果実・花き経営体数、さらに一経営体あたり産出額と経営耕地1haあたり産出額を整理しています。一経営体あたり産出額では、八千代市が717万円、柏市1,118万円、越谷市880万円、富里市1,447万円となっており、経営耕地1haあたり産出額では八千代市が835万円、柏市1,197万円、越谷市1,537万円、富里市838万円となっています。八千代市も農業の集約化をすすめてきた中、より集約されている産地もある、という見方ができるかと思えます。

10ページ目で他市との比較参考資料として、所得の差の要因となっているのではと思う部分を示しています。一経営体あたりの耕地面積を示したもので、八千代市の主力品目で、他市の規模の方が大きいという点がわかるかと思えます。統計資料の説明は以上です。

続きまして、ヒアリング結果による意見の整理という資料をご覧ください。こちらは、先日まで農協様や生産部会の方、市内農業団体、量販店の方など合計14団体にこれからの農業の方向性等のご意見を伺った結果をまとめたものです。

まず、土地利用に関して、にんじん、ねぎの生産者について、市内の農地が小規模に点在しており、まとまった農地を確保しにくいいため、機械化及び規模拡大の足かせになっているという意見、農外からの新規参入者は、信用を得にくいため、畑を借りられない、という意見、既存生産者、新規就農者共通の意見として借りられる畑の情報をどのように得ればよいかわからないという意見がありました。

次に、樹園地の確保について、梨は後継者を確保している方が多く、投資回収のため農地の長期的な利用権設定が必要であるが、土地所有者と借り手双方の都合により短期で設定されるケースが多く、梨農家の経営規模拡大が困難となっているという意見がありました。

次に、耕作放棄地の増加について、特に萱田、麦丸、桑納の未整備水田において拡大していると意見がありました。

次に、担い手についてです。1点目として、野菜生産者の労働力不足による所得低下の懸念というところですが。家族労働による経営が主となっており、特に、多品目の生産者は機械化が困難なため、親世代の高齢化、離農とともに経営規模と所得を維持できなくなる懸念がありました。

また、にんじん、ねぎでは、単価の低下を背景に、規模拡大と機械化を進めていますが、洗浄・選別・荷造りの労働が、経営規模の維持・拡大に向けた問題となっており、共選場を求める意見がありました。

次に、施設園芸の担い手の増加です。近年の台風被害を受け、今後、露地野菜から施設園芸へ転換が進むという意見がありました。

次に、農外からの就農が困難という点についてです。八千代市では、農協様の方で農外から就農者を確保し部会等の生産者として確保する取組が模索されている他、就農希望者を研修生として受け入れる農家がある等の新規就農に向けた取組が行われています。しかしながら、農地の情報に関する周知が不足している、就農希望者が農地を借りる信用を得にくい、就農時の設備投資資金の確保が困難といったことから就農が進みにくいという意見がありました。

次に、生産です。にんじん、ねぎは後継者農家では機械化による規模拡大が進んでいる一方

で、全国的に機械化が進み産地間競争が激化しており、農地確保・規模拡大と合わせ、さらなる大型機械の導入も検討されているということでした。

次に、栽培技術の情報の不足という意見です。ねぎでは作柄に適した品種の情報、耐風性のある品種の情報等が不足しているという意見があり、梨では、台風対策が必要とされており、情報の収集、対策の実証、普及活動を組織的に行うことが必要という意見がありました。

次に、環境保全型農業への期待について、八千代市では、耕種・畜産の両農業がおこなわれている一方で循環型農業の取組は限られているという意見、環境保全型農業は今後地産地消を拡大する上で市民への差別化のキーワードになるのではという意見がありました。

次に、都市化による生産環境の悪化について、住民のクレームにより、従来のやり方で農作業をしにくい状況となっているという意見がありました。

次に流通・販売についてです。地元農産物の差別化を求める小売ニーズの高まりというところで、他産地と差別化されていない八千代産の農産物が通常の売場の同一品目より割高となると売れ行きが鈍る一方で、鮮度で優位性のある葉物、ブランド化している梨は差別化されているため割高でも売れる状況があります。こうした中で、適正価格に留意しつつも、地元農産物のブランド化・優位性の周知・消費拡大に向けた取組について、行政や出荷団体と連携して推進し、地産地消を拡大する意向を示す声がありました。

次に、従来の直売所の出荷量の減少と売上の低下についてです。八千代市の地産地消は、多品目を生産し、直売所で販売することで拡大してきましたが、生産者の高齢化、小売店の地場野菜コーナー等の身近な販路の増加を背景に、出荷量が減少し、品不足が生じています。利用者確保の面では、従来の顧客が高齢化・減少する一方、新住民を顧客として確保できていない状況や、消費者の生活様式の変化を背景に、売上が低迷しているとされます。

次に、地産地消拡大に対する生産者の期待についてです。地産地消の拡大については、これまでの多品目野菜に加え、にんじん、ねぎといった市場出荷の農業者から期待する意見があがっています。梨生産者からは、市民に対するブランド力を維持する取組や、消費者を直売所に誘導する取組が求められています。いちごの生産者についても同様の意見がありました。以上、ヒアリング結果の説明です。まだ限られた調査しかしておりませんが、その中で集約したものを紹介させていただきます。

○豊田議長

ありがとうございました。今の説明について何かご質問等ございますか。

○石井委員

今年集計している農林業センサスでみられる傾向はどのようになるのでしょうか。

○事務局

数字が出てみないとわからないところはありますが、感覚的には、若手の農家の方を拜見できる形になってきており、以前より少し改善できている可能性が見られるのではと思います。

○石井委員

千葉県の中でも新規就農者の受入を積極的に行っている地区はあり、担い手が定着している動きがあります。八千代市ではそういった動きが弱いと感じます。60~70代の人が主の労働力とな

っていることから、若い人を参入させていく必要があり、行政やJAなりが受入体制をしっかりとることが今後必要になると考えます。

○事務局

形としては、昨年に新規就農の相談ができる枠組みを用意しました。ご相談があれば支援していきたいと考えています。農地集積についても、広い面積を確保できないために就農できず他市に流れる、という状況も解決していく必要があると考えています。

○石井委員

解消した耕作放棄地を新規就農者に貸す取り組みを行っていますが、農家要件の50aという面積がネックになっています。基準の縮小を考えた方がいいと思います。

○押田委員代理

千葉市では早くから、新規就農向けに農家で研修を受ける制度を設けており、国の方でも支援制度がスタートしています。千葉市では、技術習得や農地取得を支援しており、新規就農者が増えています。八千代市でもここ数年新規就農者は増えてきていますが、条件のいい農地があった人は就農できていますが、タイミングが合わないと他市にいく人もいます。八千代市でどういった農地を貸してあげられるか、また農業を始める上で作業場の確保が問題になり、そういった情報を含めて見えるようになると非常に就農しやすくなるかと思います。八千代市は都市に近く、就農を希望される方は多いと思います。

○谷口委員

神奈川県都市農業推進の取組みとして、県が耕作放棄地を借入れ、市民に貸し付けることをしていました。小さい面積でしたが、参加者が多く、卒業される中からもっとやりたいと感じる人も出てきました。就農時の面積は市町村ごとに農業委員会規定で下げることが可能で、いきなり大きい面積ではなく段階的に就農できるようにすればいいと考えます。また、神奈川では農業アカデミーに1年生の課を設けて、作った農産物を学校の前の道路で売り、需要に合った生産を学ぶ取組みがなされていました。耕作放棄地を農地に変えていくことと新規就農者の研修を上手く組み合わせるやっていくといいのではないかと思います。

○豊田議長

統計データに関しても、他に何かございますか。

○谷口委員

統計データの整理に関して、細かく品目別に経営体を分けていますが、実際は多品目を組み合わせられており、そういった重なりが把握できるとよいと思います。

○事務局

具体的な農家のサンプリングが取れるのであれば取りたいと思います。また、農地の下限面積については、去年の意見交換会でも意見が出ていました。時系列で整理した中ですぐにできるものは進めております。

○豊田議長

他にご質問はございますか。よろしければアンケート調査票の説明をお願いします。

3 農家対象アンケート調査票について

○ 事務局

農業との関わりについてのアンケート調査という資料をご覧ください。こちらは市民対象のアンケート調査となり、市内在住の方 1500 名を対象に実施するもので、設問として、主に農産物の購入状況や農業への理解・関わり方を設けており、市民と農業との関係を定量的に把握し、八千代市の農業施策を検討する材料とすることが目的となっているものであります。続いて各設問について説明をさせていただきます。次のページをご覧ください。

問1から問4までは回答者の属性を把握する設問となっております。問1で性別を、問2で年齢を、問3で居住地域を、問4で世帯員数を把握します。これらの設問と他の設問を併せて分析することで、属性による傾向の違いを明らかにすることを目的としています。

問5以降が属性以外の設問となっています。順に説明をさせていただきます。

問5は中食・外食の頻度を把握する設問です。中食・外食もしくは自炊中心といった市民の食生活の実態を把握することで、地産地消を進めていく方向性を検討する材料とします。

次ページに進みまして、問6および問6-1は農産物の購入先と最も利用する購入先の利用金額の割合を把握する設問です。今後地産地消を進める上で重要となる主な農産物の購入拠点を明らかにすることを目的としています。

問7は農産物を購入する上で重視する点を把握する設問です。市民の購入傾向を明らかにし、地産地消の推進の可能性を調査し方向性を検討する材料とします。

問8は市民における八千代産農産物の認知度を尋ねた設問です。品目別に、市民が日常的に購入しやすい状態となっているかを分析します。

問9は八千代産農産物の購入状況を把握する設問です。購入意欲はあるが購入には至っていない理由を把握し、八千代産農産物の消費を拡大させるための施策の方向性を検討する材料とします。

次ページに進みまして、問10は市民の農業との関わり方を把握する設問です。問11、問12の農業への理解度を把握する設問と併せて分析し、農業との接点の有無と農業理解との関連性を明らかにすることで、市民の農業理解を深めるために何が必要となるのかを把握します。

問11は農業の多面的機能への理解度を把握する設問です。市民が農業にどのような価値を置いているのか定量的に把握し、農業理解を促進していく方向性を検討する材料とします。

問12および問12-1は市街地における農地への市民の理解度と問題点を把握する設問です。市民

が感じている都市農業の問題点を明らかにし、八千代市における都市農業振興の方向性を検討する材料とします。

問 13 は市民が今後どのように農業と関わっていく意向を持つのかを把握する設問です。市民の意向を明らかにし、市民と農業の関わりを深めていく上で、どのような施策が必要となるか検討する材料とします。

問 14 は市民が考える農業振興を図っていく上での重点的な課題を把握する設問です。市民が農業振興に関してどのような問題意識を持っているのか定量的に明らかにし、計画策定および今後の農政の参考とします。

問 15 は記述式で市の農業振興に向けた市民の意見を把握するものです。記述式とすることで他の設問で把握できなかった意見を広く収集し、より市民の問題意識を踏まえた計画策定を進めるためのものです。市民対象アンケート調査の説明は以上となります。

○豊田議長

ありがとうございました。今の説明について何かご質問等ございますか。

○石井委員

問6に生協は入らないのでしょうか。

○事務局

宅配販売の部分にカッコ書きで加えるなど、修正したいと思います。

○高橋秀行委員

給食での八千代市産農産物利用について聞いたらどうでしょうか。

○事務局

給食での八千代市産農産物の使用意向について問う点を、具体的にどこに追加するかも含め整理、検討したいと思います。

○恵委員

問6-1についてですが、購入する金額の割合について、年間なのか月なのか週なのか、ご高齢の方などわかりにくいと思います。回答例を設けたらどうでしょうか。また、問8で八千代市産の農産物の購入できる場所について聞いていますが、誘導ではなく、購入できる場所を例示した方が回答しやすいのではないのでしょうか。

○事務局

回答者の方が回答しやすい形に修正させていただきます。

○谷口委員

子どものいる大人が回答することもあり得るので、子どもに農業を体験させるなどについて関心を問うなど、給食も含めて子どもと農業との関わりについて把握すればよいのではないかと思います。

○事務局

設問を吟味し、誘導にならないように工夫したいと思います。

○石井委員

農地の保全について、重要でないという選択肢については理由まで聞いており、重要だと思う人へも理由を聞いた方がいいのではないのでしょうか。

○事務局

紙面の都合も含め調整させていただきます。

○佐藤委員

八千代市といえどどのような農産物を思い浮かべるか、という問を入れたらどうでしょうか。八千代市のブランドイメージがあれば、販売していく側としても押していけると考えます。

○事務局

全体とのバランスを見ながら、入れる方向で考えたいと思います。

○大段委員

八千代市ではやっちブランドセレクションという取り組みを行っており人参ドレッシングがその中に入っています。加工品も含めた設問を検討すれば、新しい切り口が見えてくると思います。

○事務局

紙面の都合も含め調整させていただきます。

○周郷委員

八千代市においても家庭菜園で野菜を作って食べきれないものを近所に配る人がいるという話があります。そうした縁故米を含めた家庭菜園での農産物をもらう機会があるか聞いてもらえればと思います。また、このアンケートはどこで実施するのでしょうか。

○事務局

本調査は無作為抽出で1,500人の市民の方に郵送します。本アンケート調査では、八千代市農業の全体のポイントになるところを把握できればいいと考えており、必要な施策が出てきた際にまた個別にアンケート調査を実施することも想定しており、そういった点も総合的に考えて結論を出したいと考えます。

○谷口委員

貸し農園について、神奈川では販売を目的としない限りおすそ分けはよいとしており、こうした市民を活用しながら耕作放棄地の解消につながればいいのではないかと思います。そうした点から、今貸し農園を利用されている方について、販売への意向を問うのもいいと考えます。

○石井委員

クラフトで貸し農園産の野菜を取り扱ってはどうか。

○事務局

農薬検査等の関係から、難しいのではないのでしょうか。クラフトさんやJAさんはそこをクリアしている実情があります。農業を広めるという意味で興味深い意見だと考えます。

○周郷委員

実際に直売所でやっているところもあります。価格設定の点から本職の農家を脅かす点もあるかもしれず、難しいと思います。

○恵委員

親を対象に、子どもの学校での農業体験にPTAとして協力するなどといった設問があると身近になるのではないのでしょうか。

○事務局

例示を記載するなどの対応を検討します。具体的な取組を検討する上で再度データを収取する必要が生じた際に、詳細なアンケート調査をまた検討できればと考えています。

○豊田議長

他にご質問はございますか。いただいた意見については、整理した上でアンケート調査票に反映させればと思っています。反映については、議長に一任いただき、結果については後日ご報告させていただく形でよろしいでしょうか。

(異議の声なし)

それでは、農家アンケート調査票の説明をお願いします。

○事務局

農家対象アンケート調査票について説明をさせていただきます。説明に使う資料は「農業者アンケート」という資料です。まず、こちらの調査の概要について説明いたします。調査対象者は、農業委員会事務局より提供された農地・農家台帳から抽出した約 1000 名です。抽出につきましては八千代市の住民かつ経営主で年間の農業従事日数が60日以上である方を対象としております。

設問といたしましては、主に農業経営の状況や展望を聞く設問を設けており、八千代市の農業の実態を把握するとともに、今後の方向性や農業施策を検討するための材料とすることを目的としています。続いて各設問について説明をさせていただきます。次のページをご覧ください。

問1から問3までは基本的な回答者の属性を把握する設問です。問1で性別を、問2で年齢を、問3で耕作している地域を把握します。また、問4から問7までは回答者の農家としての特徴を把握する設問です。問4で経営形態を、問5で後継者の有無を、問6で認定農業者かどうかを把握します。これらの設問と他の設問を併せて分析することで、農業者の属性による傾向の違いを見ることを目的としています。

問7および問8は水田、畑、樹園地別に耕作面積を把握する設問です。回答者がどの程度の規模の農業者なのかを把握し、農業経営における問題等他の設問との相関を分析することで、農業者の面積規模に応じた問題点と講じるべき施策の方向性を検討することを目的としています。

問9および問10は栽培している品目と、その中でも主要な品目を把握する設問です。農業経営における問題等他の設問と併せて分析することで、栽培品目別に抱えている問題点と対策を検討することを目的としています。

問11は主な販売先を把握する設問です。品目や地域別の販売先の違いを把握することを目的としています。

問12及び問12-1は農業経営における問題点を把握する設問です。他の問と併せて分析することで、どのような農業者がどんな問題を抱えているのかを把握します。

問13および問13-1、さらに問14は今後の農業経営の意向を把握する設問です。規模の拡大、規模の縮小、離農・引退を検討している農業者がどの程度存在するのかを市全体及び、地域等別に把握します。また、農地中間管理機構の利用意向を把握することで、今後の農地集積の可能性を検討する材料とします。

問15は販売面、生産面、経営面・その他について、今後の取組意向を把握する設問です。農業者の取組みの意向を定量的に把握し、必要となってくる施策の方向性を検討することを目的としています。

問16は農業者が考える農業振興を図っていく上での重点的な課題を把握する設問です。農業者が

市の農業振興に関してどのような問題意識を持っているのか定量的に明らかにし、計画策定および今後の農政の参考とします。

問 17 は記述式で市の農業振興に向けた農業者の意見を把握するものです。記述式とすることで他の設問で把握できなかった意見を広く収集し、より農業者の問題意識や意向を反映させた計画策定を進めるためのものです。農家対象アンケートの説明は以上となります。

○豊田議長

ありがとうございました。今の説明について何かご質問等ございますか。

○斉藤委員

問9について、麦・大豆は必要でしょうか。ほとんどないと思います。また、問7について、1ha未満が多数あると思われるので、面積の区分について検討した方がいいと思います。

○事務局

問9の麦・大豆は統計との整合をとり比較できるようにという判断で選択肢に入れていますが。主な栽培品目については、販売金額の多い品目を問う設問で把握したいと考えています。

問7の水田の面積の区分についてはもう少し細かい面積の区分を検討したいと思います。

○谷口委員

問9の栽培品目で、酪農とだけなっていますが、肉用牛や養豚は含めないでよいのでしょうか。

○高橋充委員

一部肉用種として家で繁殖させている人はいますが、そういった人が統計で出てきているのではないのでしょうか。実態としてはないと思います。養豚などが入っていない点について、大まかなアンケートを行った後に詳細を聞き取りなどで把握することでもいいのではないかと考えます。

○事務局

問9については酪農を畜産に改めるといった修正、問10に養豚を選択肢として追加するといった修正をしたいと思います。

○事務局

アンケート配布後に聞き取りを実施することもいいと思うが、対面では回答しにくい部分もあるので、郵送で対応したいと考えます。

○高橋秀行委員

昨年度もアンケートを実施しているので、そのデータを使用すれば、今回のアンケート調査は不要なのではないでしょうか。

○事務局

前回のアンケートでは、認定農業者と生産者団体の方といった積極的に農業経営をされている約300名を対象に実施し、回答率は3割程度でした。その際は農業に精力的に取り組まれている方のご意見をお伺いする意図で実施いたしました。今回のアンケートでは、農業者の方に広く配布し、市の農業全体の傾向を掴むことを目的としています。

○石井委員

問14について、農地中間管理機構の利用についてのメリットを記載していますが、申請しても通らないケースが多い現状があります。また普通の農家はこの制度についてよくわからないのではないのでしょうか。

○事務局

現実として、借り手を見つけてから申請しないと難しい面はあります。政策として始まったばかりなので、声を上げることで改善の必要性を訴えていきたいと思えます。

制度の実態としては是正が必要と考えますが、この問自体はあくまでも農家としての意向を聞く設問なのでこのままとして状況を整理するのに役立てたいと考えます。

○周郷委員

以前行ったアンケート調査では回収率は3割だったという話ですが、今回の見込みほどの程度なのではないでしょうか。また、回答者に回答するメリットがないので、米やドレッシングなど何か特典をつけたいのではないのでしょうか。

○事務局

おっしゃる通りですが、市の各部局で無作為抽出によるアンケート調査を実施しており、特典等はつけていないため、行政としては苦しいところがあります。回収率を上げるためにも、本日ご出席いただいている農業者の方にぜひご宣伝いただければと思います。八千代市の郵送アンケートでは、20%から30%程度と想定され、以前行ったアンケート調査の回収率31%は高いといえます。

○石井委員

市民アンケートは1,500人に送付するということだが、想定される回収率でいうと何人くらいになりますか。

○事務局

3割を見込むと450人程度になると思われます。

○斉藤委員

JAでも農業振興計画を策定しており、農家宅にいて回収する方法で1,578件配布して610件と4割弱回収できています。ご参考にさせていただければと思います。

○事務局

ご出席されている方については、宣伝する機会があればぜひお願いいたします。

○豊田議長

事務局からありました通り、団体の長の方もおりますので、協力の方をお願いいたします。他にご意見あればお願いします。

○谷口委員

問13の今後の農業経営の方針について、ご高齢の方では5年後と10年後でかなり感覚が異なるので区分してほしいと思います。また、経営規模を拡大したい方についての拡大したい部門はある程度予測がつくと思うので、聞かなくてもよいのではないかと考えます。

○事務局

八千代市はご高齢の農業者が多いことも踏まえ、検討させていただきます。

○事務局

ご指摘いただいた経営規模を拡大したい方の拡大したい部門について、現状の品目を複数回答で把握する設問はありますが、確実にどの品目を拡大したいのかわからないという点で設けております。また、ヒアリングでは水田の未整備地帯の基盤整備については受け手がいないとできないという意見もあり、そこを明確に把握したいという意図です。修正について、内部で検討させていただきます。

○押田委員代理

問 15 の②③について。これから強化したいこと、新たに進めてみたいことを問う設問で、生産面と経営面でGAPやICTなどタイムリーな話題が盛り込まれていますが、回答者の現状の生産環境が基準になるため、選びづらいところがあり、実態に即した設問にした方がよいと思います。また、自由にアイデアを出していただくような、八千代市の農業振興について重要だと考えていることや想いを自由に書いてもらうような設問があるといいのではないかと思います。

○事務局

事務局内で相談し、現状に即した選択肢を検討します。また、自由に記述できる設問についてもどのようにすべきか検討します。

○恵委員

農家アンケートに農業未来の創刊号を同封するというのですが、市民アンケートにも同様のものを同封すると市民に対しても農業の現状が伝わるのではないのでしょうか。QRコードでデータを参照できるようにするなどの形も含めて検討していただければと思います。また、農家アンケートについては、郵送ということですが、どうしても意見を聞きたい方には直接回収する形も有効かと思います。

○事務局

農業未来の創刊号を市民アンケートに同封するよう方向で考えたいと思います。また、回収については、集計の状況を見て、もし回答率が芳しくなければ対応を検討したいと思います。

○石井委員

農家アンケートの送付先は農政課で把握しているのでしょうか。

○事務局

電話番号等は把握していないので、個別に電話などはできませんが送付した方については把握できる形になります。

○豊田議長

他に意見はございませんか。修正に関しては市民アンケート同様に、私の方で整理し、問題を精査した上で反映させたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議の声なし)

○事務局

市民アンケートについて、送付先は無作為であるため送付後の確認等はいたしません。農家アンケートは送付した方に対し、集計結果をみて別のやり方を検討する形になると思います。

○豊田議長

農業者アンケートについては、回収期間で状況を見て、全体に再度お送りするなどのやり方もあると思うので、再度事務局で検討をお願いします。アンケート調査票の修正に関しては、議長に一任いただき、後日ご報告させていただきます。次第について終了いたしました。円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。次第のその他のところで事務局より説明があればお願いします。

5 その他

○事務局

今後のスケジュールをご説明いたします。まず、アンケート調査についてですが、11月から12月上旬にかけて本日頂いたご意見をもとにアンケート調査票を修正させていただき、発送の準備を整えます。12月中旬頃に発送準備が整い次第配布し、1月には回収、集計と分析を行います。そうして取りまとめたアンケート結果を、関係団体ヒアリング結果や統計等他のデータの収集整理結果などと合わせて整理した成果を2月頃に取りまとめますので、第2回目の検討委員会を2月頃に開催させていただきます。その際は取りまとめて整理した成果をご報告し、ご意見をいただきたいと思います。最終的にはいただいたご意見をもとに修正させていただき、3月に基礎調査の結果として、まとめる予定です。次年度につきましては、計画策定を委託する事業者の選定を4月から6月にかけて業務内容提案方式で行う予定で、事業者が決定いたしましたら、検討委員会の皆様と協議を重ねながら計画の素案を作成してまいりたいと思います。ただ、業務委託のやり方は市の契約担当ともつめていくこともあるかもしれないので、場合によっては異なるやり方になることもあるかと思います。

○豊田議長

長時間にわたりご協力いただき、貴重なご意見いただきましてありがとうございました。以上をもちまして本日本日予定しておりました内容は全て終了いたしました。皆様のご協力により、本日の会議内容を滞りなく終えることができました。誠にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。